

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(令和2年度事業分)

1 施設の概要

| | | | |
|--------------------------|--|---------------------------|-------------|
| 施設名 | 山梨県立あゆみの家 | 所管課 | 福祉保健部 障害福祉課 |
| 所在地 | 韮崎市旭町上條南割3314-13 | 設置年月日 (改築年月日等) | 平成19年1月1日 |
| 管理方式 | 社会福祉法人蒼溪会 | | |
| 設置根拠 (法律、条例等) | 山梨県立あゆみの家設置及び管理条例 | | |
| 設置目的 | 精神障害者に必要や指導及び訓練を行い、自立した日常生活や社会参加を図るため | | |
| 主な施設内容 (定員等) | <ul style="list-style-type: none"> ○敷地面積:2,169㎡ ○建築延面積:646,09㎡ ○建物の構造:鉄筋コンクリート造2階建 ○施設の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・居室(全室個室:10㎡、1階に10部屋、2階に12部屋【収納、ベッド、洗面台、エアコン、カーテン、バルコニー、冷蔵庫】)、多機能室、相談室、浴室、娯楽室及び食堂並びに事務室等 ○各障害サービス定員 <ul style="list-style-type: none"> ・自立訓練(生活訓練):22人 ・宿泊型自立訓練:20人 ・短期入所:2人 | | |
| 主な業務内容 | <ul style="list-style-type: none"> (1)施設等の維持保全に関する業務 <ul style="list-style-type: none"> ・施設及び設備器具の維持保全に関する業務を行う。 (2)利用者に対する障害福祉サービス業務 <ul style="list-style-type: none"> ・自立訓練(生活訓練)及び短期入所に係る業務を行う。 | | |

2 類似施設・近隣施設

| | |
|------------------------------|--|
| 名称 施設内容 利用状況等 | <ul style="list-style-type: none"> ・梨の実寮:生活介護(52人)、就労移行支援(6人)、就労継続支援B型(12人)、施設入所支援(50人)、短期入所(6人) ・あさひワークホーム:生活介護(38人)、就労移行支援(8人)、就労継続支援B型(34人)、施設入所支援(40人)、短期入所(5人) ・あけぼの医療福祉センター成人寮:生活介護(45人)、自立訓練(機能訓練)(15人)、施設入所支援(40人)、短期入所(9人)、施設入所支援(90人) |
|------------------------------|--|

3 利用状況

単位:人、%

| | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 (目標値) |
|------|-----------------|-----------|--------|-------|----------------|
| 利用者数 | 自立訓練(生活訓練) | 19 | 20 | 18 | |
| | 宿泊型自立訓練 | 18 | 19 | 17 | |
| | 短期入所 | 1 | 1 | | |
| | | | | | |
| | 利用者数合計 | 38 | 40 | 35 | |
| | 目標値 | 44 | 44 | 44 | |
| | 目標値設定の考え方及びその理由 | 定員を目標値とする | | | |
| | 対平成30年度比 | | 105.3% | 92.1% | |
| 利用率 | 86.4% | 90.9% | 79.5% | | |

4 指定管理業務の収支状況

単位:円、%

| | | 令和元年度 (実績値) | 令和2年度 (計画値) | 令和2年度 (実績値) | 令和3年度 (計画値) |
|-------------|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 収入 | 施設利用料 | 81,319,412 | 74,185,000 | 71,696,808 | |
| | 指定管理者委託料 | | | | |
| | その他 | 1,449,895 | 550,000 | 499,095 | |
| | 収入合計(A) | 82,769,307 | 74,735,000 | 72,195,903 | |
| 支出 | 人件費 | 35,214,527 | 35,130,000 | 43,434,903 | |
| | 県への納付金 | | | | |
| | 管理運営費 | 12,325,481 | 39,605,000 | 12,423,507 | |
| | うち外部委託費(B) | 809,170 | 800,000 | 3,104,796 | |
| | 支出合計(C) | 47,540,008 | 74,735,000 | 55,858,410 | |
| 収支差額(A-C) | 35,229,299 | | △ 55,359,315 | | |
| 外部委託比率(B÷C) | 1.7% | 1.1% | 5.6% | | |
| 利用者一人当たりの経費 | 2,069,232.7 | 1,686,022.7 | 2,062,740.1 | | |

5 利用者満足度(アンケート様式は別添のとおり)

| | |
|-------|---|
| 実施方法等 | 実施期間: 令和3年1月末 実施方法: 利用者へのアンケート 回答数: 18名 |
|-------|---|

単位: %

| 調査項目 | 満足 | どちらかといえば満足 | どちらかといえば不満 | 不満 |
|----------------|-------|------------|------------|----|
| 部屋の居住性・施設環境 | 40.8% | 49.1% | 10.1% | |
| 入浴 | 44.4% | 55.6% | | |
| 提供するサービス(自立訓練) | 51.1% | 48.8% | 0.1% | |
| 相談・対応 | 60.0% | 37.8% | 2.2% | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 施設全般の満足度 | 44.5% | 43.0% | 12.5% | |

| | |
|------------|---|
| 利用者の意見 | ①手作りの夕食はおいしいが、外部業者の夕食がおいしくない。 ②朝から入浴したい時がある。 ③台所を自由に活用していきたい。 |
| 利用者の意見への対応 | ①食事提供事業者を利用者の意見として伝えていく。 ②プログラムに支障がないように入浴時間を設定していることを説明した。 ③コロナ禍で台所が密にならないこと、プログラムに支障がないように利用時間を設定していることを説明した。 |

6 評価結果

| | 指定管理者の自己評価 | 施設所管課の評価 |
|-----------|---|--|
| 維持管理業務 | 法令、業務仕様書等に基づき、適正に業務を遂行した。 保守点検を行い、修繕箇所はできるだけ早期に確認・対応している。 | 各種点検や設備等に係る不具合の改善対応等、必要とされる対応は概ね実施されていた。 |
| 運営業務 | 事業計画書に基づき、自立した生活ができるように支援し、本人の自己決定・自己効力感の向上を促す訓練やプログラムを実施し、適正に業務を遂行した。 コロナ禍ではあったが、レクリエーション等も工夫して実施した。 | 新型コロナウイルス感染症対策等、例年とは異なる環境であったが、概ね適正に事業を実施できた。 |
| 利用状況 | 待機者はほとんどなく、入退所がスムーズに進むよう、円滑に利用の調整を行った。 令和2年度の宿泊型自立訓練退所者数:23名(GH11名 自宅5名 一人暮らし3名 再入院2名 その他2名) | 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年と比較すると利用者の減少があったが、黒字収支となっている。 |
| 収支状況 | 県内精神科病院などと連携を図り、希望者の事業所見学の受け入れなどを積極的に行い、利用者の確保を行った。 また、一部経費を外部委託するなど、効率化を図った。 | 新型コロナウイルス感染症の影響で、利用者減や支出増はあったが、収入額が支出額を上回った。 |
| 自主事業 | | |
| 利用者満足度 | 「満足」及び「どちらかと言えば満足」の合計が全体の約90%の結果であった。 不満の回答は施設設備の過ごしにくさや食事の好みによる意見が多かった。 今後も丁寧な説明や関わりをしていく必要がある。今後も利用者の視点を大切にサービス提供を図っていく。 | 利用者の満足度は、概ね高かった。 |
| 運営目標の達成状況 | 精神科に入院している方など、精神障がいのある方が自立した地域生活に移行できるように、個別支援計画に沿った生活訓練等を実施している。長期入院の精神障害者だけではなく、ニューロングステイにならないように短期間の入院で入所される方も増えてきている。親元からの自立のために自宅から入所した方や、刑務所出所後からの入所の方がいた。 定期的なモニタリングの実施により、利用者の個別性を大切に次のサービスにつないでおり、2年以内の利用期間で移行することができている。 利用者の状況に応じた個別支援やプログラム等の提供により、丁寧なアセスメントを図っていくことで、利用者の生活の質の向上やスムーズな入退所に努め、地域で移行できる方を増やしていきたい。 | |

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>施設所管課による総合的な評価及び指導事項</p> | <p>施設運営においては、設備等の不具合箇所について適宜修繕を行った。 また、利用者ニーズの把握に努め、利用者へのサービスの質の向上を図り、満足度調査では、高い満足度を得ていた。 新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、感染防止対策の徹底を図りつつ、適正な運営等を行うよう指導した。 また、令和2年12月に、次年度からの指定管理について、新たな指定管理者が内定したことから、円滑に移行できるよう準備を進めるとともに、適時適切に引継を行うよう指導した。</p> |
| <p>施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況</p> | <p>県からの指導に基づき、新型コロナウイルス感染防止対策に万全を期すとともに、サービスの質の向上など適正な施設運営を図った。 また、新たな指定管理者に円滑に引継を行えるよう、丁寧に準備を進め、適切に移行を図った。</p> |

7 管理体制(組織図)

令和2年4月1日現在

